

weiß

2021. November

ここでしか過ごせない三年間

楽しい保善ライフ

interview ここでしか過ごせない三年間

国語科教諭 三保谷 遼

今回は、広報委員の岡崎 優くん(おかざき・ゆう / 1年1組)が、学級担任である三保谷先生にインタビューをした様子をご紹介します

—本日はお忙しいところご協力いただきありがとうございます。早速、インタビューをはじめたいと思います。まず、先生は保善高校の卒業ということですが、在学当時と今では何か変わったところがありますか？

うーん。いきなり難しいなあ。「スマートさ」と「素直さ」かな。今の生徒の方がスマートだよな。スマートって英語では「ずるがしこい」みたいな意味もあるみたいなんだけど、それでいて素直にもなって気がする。一見、矛盾してるようだけど今の生徒はそういう印象。昔の方がひねくれてた気がする。ひねくれてるって言うと聞こえがよくないけど、昔の方が一癖も二癖もある生徒が多かったなあ。自分もそうだったけど。このクラス(1年1組)も個性的な生徒は多いけど昔の方が「尖ってた」生徒はいたよね。個人的には君たちにはスマートで素直であるとともにもっと「尖って」ステップアップしてほしいなと思ってよ。

—逆に変わってない良さみたいなものはありますか？

まあやっぱり温かさじゃない？一つの大きな家族みたいな感じしない？



—あ、はい…

なんか言わされてる感じ出てるけど。教室の仲間たちもそうだし、先生たちも含めてね。へたしたら本当の家族よりも過ごす時間が長いわけじゃない？だから大切な家族みたいな存在として繋がってると思ってるんだけど、それは自分が生徒の時から今も変わってない保善高校の良さだと思うなあ。家族みたいである良さって気兼ねがないというか。カッコつける必要がないじゃない？見栄をはる必要もないしありのままの自分でいられる環境もいいよね。

weiß

—ありがとうございます。この1年はコロナで大変でしたが、このような状況で保善高校が変わったと感じる部分はありますか？

うーんそうだなあ。逆に岡崎はコロナでなんか生活変わったりした？

—そうですねえ…中学の時って徒歩で通学してたのもあってコロナの実感がなかったんですけど、高校に入って電車通学するようになってちょっと怖いなって思うようになったり…でも中学の頃に比べて高校は感染予防が徹底してて、自分の中でも意識が変わったなあと思います。

なるほどねえ。これも保善の良さかもしれないんだけど、何か一つの目標があると教員も生徒も一致団結できる場所があるんだよね。今回だと感染予防の徹底みたいな。まあ、それはともかく。このコロナで変わったというか、再認識したのはやっぱり授業やホームルームを対面で実施できることの大切さだね。時間と場所を共有してもらえるのありがたさは強く感じたよね。君たちや同僚の先生たちと同じ時間と場所を共有できる環境ってかけがいがいいんだなあと改めて気づかされたかな。たぶんそれに気づいたことで授業やホームルームに対する意識も変わってるんじゃないかな。

—では次に聞きたいのですが、先生の中で授業をするときに心がけてることってなんですか？

岡崎から見よう？

—うーんそうですねえ。授業が一方通行にならないようにしてるのかなあって思います。冗談も交えながらぼくたちをひきつけたり、質問を投げかけたり、メリハリをつけてる感じはします。

だいたい当たってるかな。君たちに考えてもらうのが重要なんだよね。「未来考動塾」の名前にもあらわれているけど君たちに「考えて動いて」欲しいからね。思考する力、判断する力、あるいは表現する力を授業の中で伸ばしてほしいから、ただ知識を与えるだけの一方通行の授業にはならないようにしてるかな。



—先生にとって「教師」としての目標はありますか？

うーん。どういう答えを求めているの？



weiß

——えーっと…コロナとかもあったわけですけど、これからは時代は変化していくと思うので、そういう中で先生はどうなっていきたいのかなあと。

そうだなあ、あんまりいい表現じゃないけど「お尻でイスを磨く」ような教員にはなりたくないかな。

——え…どういう意味ですか？

この仕事ってね、教える内容をアップデートしないでいてもできてしまうんだよね。残念なことだけど。でも、自分はそれではやっぱりダメだと思うわけ。学習指導要領が改定されて少しずつ教えるべきことが変わっているというのもあるけど、君たちへのアプローチの仕方、教え方だって変えていかないといけないよね。どんなことを教えるのか、どんな風に教えるのか、考えていかないといけないよね。椅子に座って何もしないような教員にはなりたくないですね。

——なるほど…では、先生が生徒たちに求めることというか、どんな生徒に入学してきてほしいですか？

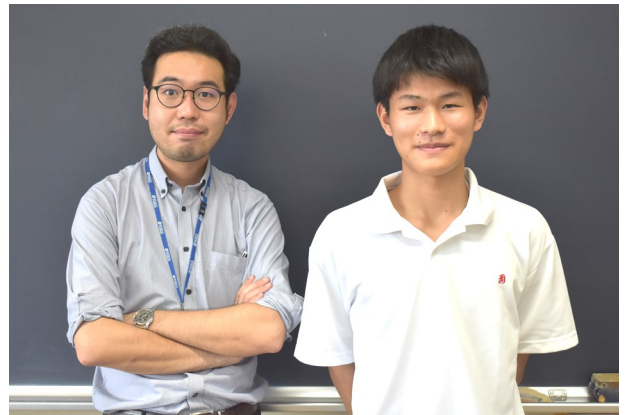
これは結構明確だね。中学時代、くすぶってしまってる人もいると思うんだよね。自分もそうだったんだけど。でも、保善高校は新しいことに挑戦したり、自分を変えるのに必要な環境が整っているし、仲間もいるから、何に挑むかはまだ決まっていなくても、何かに挑みたい、変わってみたいと思っている生徒に是非来てほしいね。

——最後に在校生や受験生に一言お願いします。

在校生に言いたいこととしては保善高校の居心地の良さに甘えていないか自分を見つめなおしてほしいということですね。自分は何を目指しているのか、何に挑みたいのか見直してほしいと思

ます。居心地の良さに甘えず、この環境を生かしてストイックに取り組んでほしいですね。受験生の皆さんに伝えたいこととしては、保善高校は都内でも非常に少ない男子校です。実際に自分が通ったから言えるけど、保善でしか過ごせない三年間がここにはあると思うよね。中学の時なんて勉強嫌いだったけど保善で過ごすうちに学問に目覚めた部分もあるし。保善高校でしか過ごせない三年間を経て、「新しい自分、自分が望む自分になる」ことができるんじゃないかな。

——本日はお忙しい中、インタビューを受けてくれてありがとうございました。



weiß のこと…「知っている」と「白い」という意味を併せ持つドイツ語。まっさらな気持ちで知性を磨くことで「新しい自分」を見つけてほしい、という願いが込められています。

《おいでよ！HOZEN》 楽しい保善ライフ

広報委員の田島 義輝くん(たじま・よしき / 1年1組)が、同じクラスの小宮 克樹くん(こみや・かつき / 1年1組)にインタビューを敢行しました。



— 過ごしていますか？

午後の授業がない分、その日にあった授業の内容はその日のうちに復習してます。予習をする時間やテストの解きなおしをする余裕もできました。

— 保善高校に通っていて一番楽しいのはどんな時ですか？

休み時間に友達と話してる時ですかね。ホントに仲がいいので一緒にいるだけで楽しい時間が過ごせているなと思います。

— 授業はどうですか？

先生の話が面白いですね。ユーモアのある先生が多いので授業も楽しく受けています。

— 将来についてはどう考えていますか？

国立大学への進学を目標にしています

— 目標に向けてどのような努力をしていますか？

普段から地道に勉強することが一番だと思います。今は模擬試験の対策を進めています。

— 大学卒業後の夢はありますか？

大学卒業までに簿記一級をはじめとした資格取得につとめて、選択肢を増やしたいと思います。海外移住も夢なのでそれに向けて語学も磨きかけたいです。

— ありがとうございました。

制作 / 保善高等学校

取材 / 保善高等学校広報委員会

印刷 / 保善高等学校印刷室

企画・編集・デザイン

weiß編集部(平能 修 / 細谷 大輔 / 杉澤 晋太郎 / 中里 謙佑)

— まず保善高校入学したきっかけを教えてください。

塾の先生からの勧めでした。実際に学校説明会に行ってみると校風が自分にあっていると感じました。男子だけの環境も楽しそうだなと思いました。

— では特別進学クラスを選んだ理由を教えてください。

最初は大進選抜クラスの基準しかクリアできていなかったんですが、せっかく入学するなら一番上を目指そうと思い、大学進学のことも考えて特別進学クラスに入れるよう、入試当日頑張りました。

— 入学してみて保善高校への印象はどうでしたか？

先生が面白いです。話しやすい先生が多いのですぐに馴染むことができました。

— 部活は何かしていますか？

部活は写真部で活動しています。毎日活動があるわけではないですが、個人的に撮影に行くこともあって楽しく活動しています。

— 先輩との関係性はどうですか？

先生もそうなんですが、先輩も話しやすい人ばかりですね。気さくに接してくれるので部活動も楽しいです。

— コロナ対策の一環で短縮授業もありましたが、午後はどう

